



### 徳 志偉 (H15 会館生、中国) 記憶に残る 18 年間の些細な思い出たち

2014年9月日本を離れ、半年振りに戻ってきました。相変わらずの静けさと礼儀正しさが「帰った」という郷愁を引き立てました。



財団を尋ねた際に、OSF 便りの作文を書いてみないかと館上さんに誘われました。話したいことが積もってきて、書くのにちょうどいいタイミングだと感じ、快諾しました。

僕は 97 年日本に来ました。今年になってちょうど人生の半分を日本で過ごしました(これで年がばれちゃいましたね)。日本は僕にとって名実ともに第二の故郷になりました。振り返ってみると日本での数え切れないほどの出来事が僕の成長してきた道を築きました。

カルチャショックは始めて外国に行くとき誰でも感じるものです。しかし、僕にとって最初のカルチャショックの記憶は日本ではなく、故郷の内モンゴルでのミルクティー事件です。故郷の中国内モンゴルで塩分を補うために古くから飲まれてきたミルクティーはみんな塩辛いです。何の疑いもなくずっと塩辛いミルクティーを飲んできました。ある日、親戚が鉄カンの中国の南国—海南島産ミルクティーを持ってきました。当時高校生の僕には新鮮で、家族の誰よりも早くお湯を沸かし、初めの一杯を賞味しました。湯気から、あれっ？ミルクの匂い以外に変だぞと感じたが、ものともせずに液体を口にしました。

塩辛くないっ？！甘いっ！なに？？？こんなミルクティーはありっ！！その一瞬は鮮烈で、今もはっきり覚えています。

日本はきれい、日本人は礼儀正しいなどは言うまでもないです。このような表<sup>おぼ</sup>話題はたくさんの礼儀正しい留学生たちに万年作文のように語られてきました。しかし、本当に僕にとってショックが大きかったのはそれではありませんでした。ここで述べるのも鮮烈なものだけです。

「本」屋はその一つに数えられます。

日本に来てまもなく、先輩の紹介で居酒屋の洗い場で人生初めての仕事に就きました(皿洗いの心得は後ほど述べます)。アルバイト先の池袋の路地にたくさんの「本」屋があります。看板も「本」一文字だけで、のれんがかかっていました。えっ？変だ、何の本かな？僕は好奇心と戦いました。最初の一週間は日本語もろくに話せない僕には入る勇気がなかったです。

時間が経つにつれ、アルバイト先の人たちから「あれ、ああいう本だよ、見てごらん」のような返答があり、目線も声も曖昧で、そっち系の匂いから、思春期の僕にはもっと興味がわきました。一週間後に勇気を奮い立たせ、「本」屋に入店！

わお！

想像どおりの裸の世界でした。一気にこんなたくさんの未知な情報が脳裏に入ると、軽く眩暈を起こしました。19歳の若さで眩暈と戦って、KO勝ち、残りは情報の摂取のみでした。このような「本」は母国では法律違反です。こんなたくさんの自由閲覧情報は想像つかないです。外国に行かない母国の人々はこのカルチャショックとは無縁で、あってもこそそでしか見られないです。国が違うとこんなに違うのかと嘆きました。

戻って、皿洗いのアルバイトの話をして。これが僕の「仕事」に対する最初の印象であり、鮮烈でした。



その職場は「清龍」という名の居酒屋でした。池袋東口の路地に乱立したたくさんの飲食店、スナック店、洋服屋、「本」屋に混じり、特に清らかでもなかったです。店の中は小汚い食器や棚が店の古さを物語り、床は洗っても取れない油汚れが隅々にありました。仕事の初日は4月3日午後2時から始まり、ちょうど花見をしていたので、ガラッと環境が変わり、薄暗い居酒屋にもぐりましました。

2時—5時はお客さんがほとんどいなく、1時間にお皿3、4枚洗い、こんな仕事は楽勝だと思いました。

5時からお客さんが次々と入り、10分に2—30枚のペースで仕事量が増えましたが、まだ楽勝で、家で家事をやる感じで洗い続けました。

6時から10分50枚ほどのお皿が続々到着し、手が止まらない忙しさになったが、何とかなんと自分に言い聞かせました。  
(2面へ)

仕事に没頭しているうちに、「宴会客が入ったぞ」と他のスタッフから聞こえました。宴会という言葉に辛うじて理解した僕の日本語レベル、それに頭も上がらない忙しさ、僕は宴会の恐ろしさに気づかなかったんです。

忙しくなると時間が過ぎるのが早く感じ、9時半に店内は一息ついた雰囲気でした。「ご飯だ！」と誰かに言われ、そのままキッチンの中でしゃがみ込んで、交代でキッチンスタッフたちがご飯を食べ始めました。僕の立ち位置の横に食器エレベーターがあり、その壁に凹んだ縁がちょうど椅子になり、だれにも取られない「王座」だと喜びました。

食べている内に、洗い場のシンクに食器がたまり、溢れ出すぐらいになりました。食べ終わるとすぐにその200枚ほどのお皿の片付けに飛び掛り、また仕事に没頭しました。この居酒屋は洗い場が1階にあり、地下1階を入れると全部で4階も営業し、200席もあります。10時ごろお客さんが入り始め、「王座」のブザーがなり始めました。

1回、2回……。何回も何回もお皿が運ばれてきました。「終わらないのか――」人生初めて絶望感に襲われました。

最終的に2台のシンクからお皿が溢れ、洗い場手前の床に30cmの皿が横たわり、その上に僕が立って、どうすればいいのかわからない盛況になり、5-600枚はありました。どう片付けたのかは今思い出せません。ここまで大変じゃないと、仕事じゃないと思知らされたのは確かだったのです。

正直、その後仕事が怖くなりました。恐怖心が柔らかくまでは2ヶ月もかかりました。

このような自分しか判らない、誰も教えてくれない、教えられない手応えが後ほど僕の人生に続々登場し、人生のマイルストーンになりました。これからOB会で鮮烈な思い出を語り合いませんか。

**ゲン・フーチン**（会館生） ベトナム（ハノイ）

千葉大学工学部 情報画像学科

### 日本に留学した理由

私はゲン・フーチン、ベトナムの留学生です。現在、千葉大学工学部情報画像学科の4年生です。小さい頃からコンピューターに関する分野に興味があり、これからの世界では、コンピューターが必要不可欠なものになると思い、その技術を勉強したいと考え、高校では科学コースを専攻しました。高校卒業後ベトナム大学に進学して情報工学を学び、さらに深く学問を探求するため、日本への留学を決意しました。

日本のテレビドラマを初めて見たのは高校時代でした。「日本人は礼儀正しい」、「日本人は働きが好き」、「日本は美しい」など、日本についてぼんやりした認識しか持っていませんでした。日本と聞くと、桜や和服を着ている女性の姿、富士山、車社会というイメージがすぐに頭の中に浮かぶようになり、日本のことがもっと知りたい、日本に行ってみたいと思うようになりました。

そして日本を留学先に選んだ一番の理由は、日本が先進国の中でも特に科学技術が優れているので、どうしても日本の高度な先端技術を学び、学習したかったからです。日本では、研究分野においても計画がきちんとたてられ、立派な成果があげられています。私もぜひ日本人のような研究者になりたいと思っています。



### 自分の進路・将来性

大学卒業後は大学院に進み、博士課程まで研究を続け、深い専門性と幅広い視野、豊かな想像力と実行力を持ち、コミュニケーション能力を高め、国際的なエンジニアとして活躍できるようになりたいと思っています。将来、日本で学習した専門知識と経験を活かし、技術者として母国ベトナムの発展のために尽くしたい、そして日本・ベトナム両国の交流にももっと役に立てるように全力を尽くし、社会貢献したいと強く希望しています。

**石 振強**（奨学生） 中国（山東省）

東京工業大学理工学研究科 国際関係工学専攻  
留學生活を経験して自分で成長したと思えること

私は2008年に来日し、今およそ7年経ちました。この7年間の留學生活を通じて、私は自立ができたことと、異文化に対する適応性を身に付けたことが、一番成長したところだと思います。

私は高校を卒業した半年後に日本に来たので、それまで実家に住んでいたり、高校の寮に入っていたりしていたわけで、一人暮らしの経験がありませんでした。生活能力があまりなくて、経済的にも完全に両親に依存して

いました。

それが、一人で全く知らなかった日本に来たので、最初の半年間は正直つらかったです。でも、私はその時、自分で完全に自立しようと決意しました。理由としては、二度とこのようなつらい経験をしたくなかったからです。それから、私は学業を向上すると共に、一年中ほぼ休みなく、テスト期間の時さえ、アルバイトをやり続けています。結果としては、生活が安定して、今まで一切両親の手を借りずに留學生活を送ってこられました。



また、私は日本に来た時、全く日本語が話せなくて、日本の文化もあまり理解していなかったです。その後、日本語を勉強しつつ、周りの日本人と交流するお陰で、日本の文化の深層に触れました。その際に、中国と日本文化、及び人々の考え方の違いを強く感じました。大学に入った後でも、他国出身の留学生と接する時も、文化間の違いをとところどころで感じました。

私は世の中全ての物事に理由があると信じて、他人と円滑な交流をすることによって、その人が代表する異文化も深く理解できるし、その異文化の輝くところも見つかると思います。このように考えているから、私は今、国籍・文化などによる違いに関係なく、誰でも円滑に交流できるようになったと思います。

## 美 月（グサリアイ・ジューマン）（奨学生）

中国（新疆ウイグル自治区）

千葉大学融合科学研究科 情報科学専攻

### 留学生活を経験して自分で成長したと思えること

私は現在千葉大学融合科学研究科の博士課程に進学し、尾松・宮本研究室でカイラルプラズモニクスに関する研究をしています。現在は新たなレーザーである光渦を有機物であるアゾポリマーに照射し、マイクロサイズのカイラル構造体を創っています。今後はその構造体の電磁場解析なども行おうと考えています。

研究室での生活も楽しく、浅草など東京の観光地を案内してもらったり、新宿に研究室のみinnでウイグル料理を食べに行ったりもしました。私が日本に初めて来たのは2012年で、もちろん家族も友達もいないし、日本語や日本の文化もわからなかったためとても不安でした。昔私は臆病だったのですが、千葉大学で勉強し始めたら、日本人の友人ができ、日本語も上達していきました。日本語の上達に伴い、日本の友人や研究

室の方たちとも積極的にコミュニケーションを行えるようになりました。

私は現在一人暮らしをしているのですが、公共料金の支払い、掃除、洗濯や料理をしなければなりません。料理ではムスリムであるため豚肉を食べてはいけなくて、食材の成分などを確認したりしなければならなくて苦労しています。学会で東京などに行くときも、自分で路線を調べて一人で電車に乗らなければなりません。今ではこれらができるようになりました。さらに最近ではファーストフードやコンビニエンスストアでアルバイトにも挑戦しました。アルバイトでは色々な人と話す機会が多いため、恥ずかしがり屋だった私もコミュニケーションすることができるようになりました。色々なことにチャレンジすることで、自信がついてきたので、さらに新しいことにも挑戦していきたいと思っています。



## 張 奕（奨学生） 中国（山東省）

千葉大学園芸研究科 食料資源経済学専攻

### 留学生活を経験して自分で成長したと思えること

ある著作に「城中の人は外に出ようとしており、城外の人は中へ入ろうと願っている」という言葉がある。最初私は日本への留学生活に物凄い好奇心を持ち、どうしても手に入れようとしていた。

しかし、留学するのは想像以上に厳しく、経済的な面や、言葉の壁を越えることなど困難なことがたくさんあった。大学3年の時、母ががんになり、その治療で仕送りを中止され、留学をやめざるを得ない状況に追い込まれた。正直に言えば、昔の私は困難に直面すると諦めやすかったが、経済的問題を解決すると同時に、私はチェーンの居酒屋に入り、大きく成長させるために、アルバイトを始めた。

入ったばかりの頃は、清掃や洗浄などの雑用係だった。それは機械的な仕事で、洗浄機もあったし、そんなに丁寧にやる必要はないと思ったが、周りの先輩の仕事

振りを見ていたら、10年以上も働いている人が手を抜かず真面目に仕事をしていた。新米の私はすごく恥ずかしく思うとともに、見習おうと思った。その先輩のマネをするうちに、強い責任感が身についた。バイト先において、どんなに細かい仕事でも、任されたことは真剣に取り組み、仕事を効率的に進めるために、仲間もできるだけ手助けした。その結果、責任感が身についたと同時に、自分の粘り強さも鍛えられ、仕事も一層出来るようになった。

アルバイトを始めて3年目の今では、私は雑用係からホールとして一人前になったばかりでなく、店長にも優遇され、時給も店内36人の中でランキング2位になっている。

責任感と粘り強さが身についたことは私にとって大きな成長であった。このような経験をつみ重ねながら、将来の夢を目指して頑張っていきたいと思う。





## OB来团

- ◎4月26日、朴明洙さん(H25 会館生、韓国)が来日し、来团。昔の仲間が大勢集まった。
- ◎5月1日、ファイさん(H20 会館生、マレーシア)が婚約者と来团。6月11日にマレーシアで結婚するそうだ。おめでとう！
- ◎5月10日、林碧虹さん(H15 奨学生、マレーシア)一家が大阪から千葉へ転居し、来团してくれた。
- ◎6月22日、デリパールさん(H10 奨学生、ウイグル自治区)が娘さん2人を連れて来日、来团してくれた。
- ◎6月22日、篠佑基さん(H14 会館生、日本)と李秀賢さん(H14 会館生、韓国)が転居前の挨拶に来团してくれた。篠さんは社命で新潟の大学で経営学の修士課程に入学とのこと。
- ◎7月4日、ソポンさん(H12 奨学生、タイ)が出張のため来日し、来团してくれた。10年ぶりの再会で昔話で盛り上がった。
- ◎7月9日、韓瑠巧さん(H16 奨学生、中国)がサンフランシスコから来团。ご主人と4歳のお嬢ちゃん、家族みんなで訪ねてきてくれた。

◎6月2日、26日、理事会・評議員会が開かれた。3月に続いて今年2回目の集まり。お忙しい中、皆さま本当にありがとうございます。



ファイさん



ソポンさん



デリパールさん親子



篠さんと李さん夫婦



韓さん家族

- ◎4月9日、高郷さん(H20 年奨学生、中国)に長男誕生。
- ◎4月20日、ジルモトさん(H24 奨学生、中国・内モンゴル)に長女誕生。
- ◎7月4日、メンディさん(H24 会館生、モンゴル)に長女誕生。
- ◎5月17日、朴明洙さんが結婚。

## 結婚・出産

皆さんおめでとうございます！お幸せに！

## 奨学生「北房総」旅行 (5月16,17日)



4月25日に発生したネパール大地震で大変な思いをしたネパールの皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



## なごやかに～楽しく～ 例会



## 会館だより

- ◎6月30日、チン・カック・キーさん(ベトナム・千葉大)・7月8日、ファテミ・アル・マシュールーさん(パングラディッシュ・千葉大)がそれぞれ入居。ようこそOSFファミリーへ！
- ◎4月18日、高尾山へ日帰り旅行へ行く。天気にも恵まれ、軽い登山で気持ちの良い汗をかいてきた。